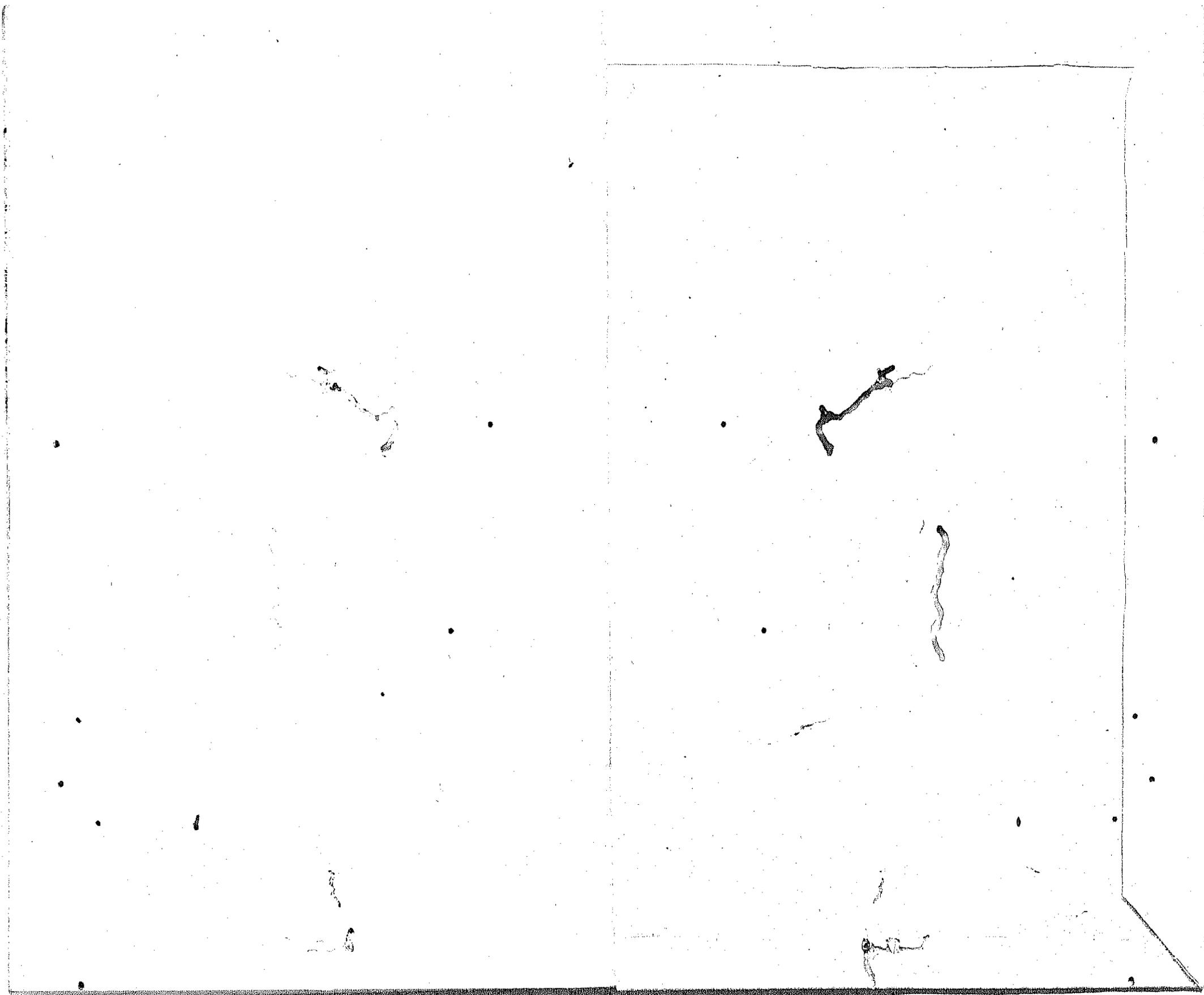


桑名神社
中臣神社
縁起鈔



桑名神社
中臣神社
縁起鈔

伊藤文庫
22



Handwritten text at the top center, possibly a title or date.

Vertical handwritten text column on the right side of the page.

Vertical handwritten text column in the middle of the page.

Vertical handwritten text column on the left side of the page.

Vertical handwritten text column on the far left side of the page.

Small handwritten mark or character on the right side.

Small handwritten mark or character on the right side.

Small handwritten mark or character at the bottom right.

東京市立図書館印

東京市立図書館蔵

東京市立図書館蔵

あるは

あるは

あるは

多摩川

神の心

天皇の福

アマツヤシロクニツヤシロヲイハヒテゾワガアシハラノ
 天津社國都社乎齊皇我第原之
 クニハヲサマルトハカケマクモカシコキゴウダ
 國波治流止半扶卷我思支後字多
 ノスラニコトノオホミウタニシテトホスメロギ
 乃天皇乃沛製乳尔之豆遠之皇
 ノミヨミヨヨリタマキハフカミヲイツクヲモ
 能治世之与利靈幸神乎高乎以
 テオホミマツリゴトノモト井トシタマヒシイチジギアカシ
 互大沛政乃基止為給比之灼能潔信
 ナルハイフモサラナリカレエシギノミフミ
 奈流波之云走更也故迄之能友帳
 ニハミチノアマリノカミトヤシロトヲノセテオホミ
 尔乎之尔尔乃神心社也乎我王官

マツリニ アツカリ タマフ サマチ アラハセルガ
祭尔新前 祭布 伏嘉 祭主 流我
式帳尔裁立 伊勢國 祭名 郡 祭名
町ニ 大ニ 宜 程 古 敷 立 立 神代乃 古 昔
与 利 鏡 坐 湊 桑 名 神 社 波 々 走 此 地
尔 源 支 幽 契 有 留 二 程 乃 神 乎 齋 祀
利 又 同 境 乃 内 二 鏡 坐 寸 中 居 神 社 也
有 能 尔 裁 立 程 乃 古 國 乃 造 乃 祖 神

チ イツキ マツリ タル ニ ナカゴロ ナラ ノ カスガノ
春 高 祀 多 流 尔 中 頃 祭 名 乃 春 日 乃
神 乎 毛 保 祀 天 御 代 々 乃 朝 廷 有 爲
海 川 乃 世 尔 至 留 生 有 毛 武 将 乃 崇
敬 厚 久 幾 許 乃 神 地 乎 奉 立 程 年
中 乃 祭 祀 有 急 有 神 經 安 遠 也 乃
人 民 乃 仰 支 乎 比 季 祭 多 恩 敷 嘉
系 利 多 有 祀 祭 留 尔 明 祭 乃 聖 代 尔

カムツカサトミテツカハマツルミサキタミキイクニ
神官止之立事任法之崎氏樹伊國
ノタメオホミタカクノタメトテコトニマツリノワザ
乃為人氏乃為止之継尔祭祀ノ業
ヲイソレミヌルナベニミヤレトミカミト
乎勤美ぬ流若尔神社祭祭神坐
ノユエヨシヨリスベテノコトノアトヲモルル
之縁故与理總立乃事實亦漏流
コトナクオツルコトナクカキツリスリマキ
事无久流流子天久書綴利摺本
トシテヒロククヨニアラハサントソノシタガキヲ
止之乞廣久世尔將顯止之縁本嘉
モチキテシメセルニヨリツラクニミモチユキ
持来立示之依縁尔自取

テオモヒケラクハイトモタフトキミヤシロノ
立思神良久波家多為支神社乃
ユエヨシモマサシキフミノアラズバソコバク
由縁母心志支能縁乃不有ハ縁多
ノトシヲフマニツヒニナカノシニツ
乃年亦經流徳道尔野中ニ法流
モトノユロヲウシナフビキヨアハレミサキノ
本乃心亦支不信来美阿信ニ崎乃
カムツカサノトシツキニツトメイタツキテカクアサチ
祠及乃年自ニ勤功立出也流草
ハラツバラナナルフミヲナシカミノミイ
原委亦流書若字為之神乃縁
ツカイヤマスクニカヤカセルハツカヘマツルツカ
哉亦備若尔赫若波在任流業

ニイタクイサヨアリトメデヨロコフマニマコフニ
 尔痛支尔檀心成毅尔德心
 マカセライサカソノカタツカタニカキソヘテカヘシヌ
 任毛少云卷渾尔書流立直志奴
 明治二十二年九月二十七日文科大學
 教授文學博士淺田清純

大沼蓮齋書


桑名神社緣起鈔

井上賴國校讀

三崎民樹謹記

三重縣伊勢國桑名郡桑名町大字三崎鎮座

一 桑名神社

一 祭神 天津彦根命

天久々斯比乃命

一 中臣神社

一 祭神 天日別命

相殿

桑名神社 桑名巴少

建御雷神

齋主神

天兒屋根命

比賣神

一 鎮座年月未詳

一 由緒

桑名神社ト稱ヘ奉ルハ延喜式ナル神名帳ニ伊

勢國桑名郡十五座大一座 小十四座トテ其ノ社々ヲ列記

セラレタル最初ニ桑名神社二座ト有テ國幣ニ

預タマヒ朝廷ノ御崇敬モ淺カラズ景行天皇五

十三年八月東國へ行幸アリケル時ニ此地ニ

到マシテ御親祭ヲラセ給ヒ天武天皇白鳳元年

六月難ヲ東國ニ避テ伊勢國桑名郡家舊記ニ白

内也トアリマタ政餘雕玉桑名志等ニ見エタ境

古文書ニ桑名郡御崎之神者天武天皇行宮之基

址也設祠號地主大明神爾來勸請春日大宮之神

配祀之薦供不怠靈驗最新神主藤原尚貞抽神

職被宗功之餘流涉中臣之被五十二條之袂頗

積講習之總社司畢勤乃諸郡鎮之後使爾掌北

勢廢祭祀後除一切神事可管其訓導仍狀如件

當時ノ御舊跡ハイノ参考ニモトテシルセリ猶如

桑名神社

桑名神社

二

フムネモ有レド事ニ宿タマフ時ニ御祈願アリ
 長ケレバ漏シツ
 同十三年十二月御社御造營ノ勅命アリ朱鳥元
 年八月天皇御腦マシマシテマタ御祈願アリ持
 統天皇同三年八月勅命ヲ以テ御遷宮ヲ行ハセ
 給ヒ近衛天皇仁平二年八月御社御造營ノ勅命
 アリテ源頼政ニ其ノ事ヲ監サセタマヒキ源當時
 位ノ堀アリケル井ナリトテ今モ此ハ外神寶等奉
 城内ニ掘アリケル井ナリトテ今モ此ハ外神寶等奉
 ラセ給ヒシ事モ時々アリキ往古神寶ノ數多ナ
 ノアリシニ殿町トモシキゾカシケル今ニ其ノ所ヲ桑
 名町ノ寶殿町トモシキゾカシケル今ニ其ノ所ヲ桑
 見エテ日本書紀ニ命テサテテ神ノ事ハ古クヨリ桑
 之神寶云々五十瓊敷命譚妹大姊命曰我老也

不能掌神寶自今以後必汝主殿大中姫命辭曰吾
 手執如人也何能登天神庫耶五十瓊敷命曰神庫
 雖高我神能爲神隨樹梯之此其緣也トアリ
 又聖武天皇天平十九年十一月神宮寺願ニ皇ノ御
 僧行基ノ開基ナリ明治初年マデ域内ニ堂宇
 ノ有テ俗ニ本地堂トモ唱ヘシハ其ノ名殘ナリ
 ヲ置カレ醍醐天皇延喜六年九月勅額御題字ハ
 トアリリ永久年中火災ヲ賜ヒ且佛眼院現寺トハ佛
 ニテ隆リタリ十六年八月僧最澄ノ開基ナリ此ノ時
 ヲテ延暦十六年八月僧最澄ノ開基ナリ此ノ時
 別當職ヲツニ兼住セサセ給ヒキ然有バ往古ヨ
 リ朝廷ニモ別テ御崇敬アラセ給ヒシ事シラレ
 タリ祭神ハ天照大御神ノ第三ノ御子天津彦根

命此ノ大神ノ御子天久々斯比乃命ノ二柱ニマ
 シテ天津彦根命ハ古事記日本書紀姓氏録等ニ
 見エタル如ク御子孫ノ殊ニ蕃ク御榮タマヒ天
 久々斯比乃命ハ御名ニ負給ヘル如ク神徳ノ甚
 モ靈妙ニマシマシケリサテ此ノ二大神ノ是ノ
 伊勢國桑名郡ニ鎮座事ハ遠キ神代ニ深キ幽契
 アル事ナメリケレバ漏シツ猶別ニイフベシガ
 ソモ々々人代トナリテハ姓氏録ナル左京神別
 ニ桑名首天津彦根命男天久之行比乃命之後也
 御巫清直翁ノ云フ姓氏録ノ刊本ニ天久之比乃
 命トアルヲ古寫本ニ本ヲ以テ校訂スルニ何レ

モ天久之行比乃命ト之比ノ間ニ行ノ字アリ此
 ハ天久之行比乃命トアリシヲ後ニ誤テタラシ
 ニ作斯ノ草體ヲ云ハレタルハ實ニ宜ナル謬ニ
 脱シタルナリト云ハレタルハ實ニ宜ナル謬ニ
 ソト見エテ其ノ神裔ノ此ノ地ニ蕃榮マスマニ
 マニ氏族ノ宗家即土地ノ主宰トナリテ代々祖
 宗ノ御社ニ仕奉ラレタリ孝徳天皇大化年中ニ
 古法ヲ革テ郡縣ノ制度ヲ立タマヒ郡家ヲ桑名
 ニ置カレシニモ猶郡司トナリテ桑名郡ヲ領宰
 アリケルニ年經ル任ニ朝廷ノ法度モ漸々ニ衰
 ヘテ武門武士ナドノ蔓延マニ々々遂ニハ何レ
 ヲ其ノ氏人トモワキガタキマデニナリシナリ

ハウミサキノノ義ニモアルベシサテ今モ桑名町
 ニ三崎通ソノ近村ノ大山田村ニサテ今モ桑名町
 イフ地名ノコトヘテレ又此ノ地ノ安ルキ事ハ域内
 ニ神木ト唱テ楠ノ大樹アリ永寛政再度ノ
 火災ニ罹リ元十一年十月五日其ノ根ケミナリケ
 ルガ神明治元有キテ又北勢古志ニモリケテ此ノ
 七尺アマ根有キテ又北勢古志ニモリケテ此ノ
 ミエテ社地ノ有キテ又北勢古志ニモリケテ此ノ
 茂シタリシホドハニ引載セナリ然レバニテ此ノ
 ノ甚古キ事ヲモナリケレバ然呼シニ其ノ
 知ラルナリモナリケレバ然呼シニ其ノ
 座式内ノ御社ニマセバナルベシ云々
 社ヲ古ヨリ其ノ正名ヲ唱ヘズ某大明神ト俗
 稱スル事諸國ノ内神名帳ニ載スルガ如シト本
 國ニテモ其ノ流例ニテ桑名神社ハ三崎大明神
 ト稱スルモ此ノ例ナリトイハレシハ然ル事ナリ
 弘仁五年二月奉幣於神明報豊稔也トエテ日續日
 本紀

後紀承和十五年近江國散久難度神列於明德實錄仁
 壽元年詔以近江國散久難度神列於明德實錄仁
 衡二年吉備津彥明神又仁和三代實錄貞觀七
 年奉充諸神明又神仁和二年宣命松尾
 大明神トモアツリ又古ヘノ例ナリハ
 又中臣神社ト稱ヘ奉ルハ延喜式ナル神名帳ニ
 伊勢國桑名郡中臣神社ト有テ同ジク國幣ニ預
 給フ御社ニマシテ祭神ハ天日別命ニマセリ此
 ノ大神ハ伊勢風土記此ノ論事ハニモ見エタ
 ル如ク神武天皇ノ御東幸ニ扈從マツリテ勲功
 イトモ拔群タマヒシニ別テ伊勢國ヲモ平治シ
 給ヒツレバ村邑ヲ賜ハリテ伊勢國造ノ始祖ト
 桑名神社 縁起少
 六

臣ト唱フルナシ續日本紀云天平九年十月
 月從六位上伊勢直大津等七人賜姓中臣伊勢連
 天平神護二年外從五位下中臣伊勢連大津賜姓
 伊勢朝臣姓錄云伊勢朝臣天底立命孫天日別
 命之後也考等一ア注ル中臣伊勢連ノ祖ナラムカト
 傍注再考等一ア注ル中臣伊勢連ノ祖ナラムカト
 勢氏本國々々造ノ末孫ノ堂唱スル姓ナリ其ノ
 大神野代宮ニ入御ノ時國造建日方命參相ヘシ
 シ事本記ニ見ユレハ本郡ニ其ノ子孫ノ遺存シ
 テ所祭ノ祖神トスルハ誣ルニ非ズト謂フヘシ
 キカ然ル事ナリハサテ桑名神社ヨリ廿町アマリ
 實ニ絶テ鎮座ケルヲ正應二年ニ故アリテ同ジ
 モ隔絶テ鎮座ケルヲ正應二年ニ故アリテ同ジ
 域内ニ遷座アラセラレタリ御舊地ハ今何處ト
 ノ山上ナリ或ハ益田村ナリ上野村ナリ由縁ア公
 私瓜録見聞畧志桑名志等ニ見エタルゾ由縁ア公
 クリ探ナスル猶シヨ又春日大明神トモ稱ヘ奉リタル

ハ中古ヨリ藤原氏ノミ繁榮テ他ノ氏々ハ多ハ
 見影モナク衰微タル任ニ心オトリ爲ラレテ其
 ノ氏人ナラヌモノ藤原氏ヲ名告ツルマデノ
 時勢ト成ヌルニ且世々ノ亂ニアヒテ先紀ノ故
 實ナドハ絶テ識ルモノモ無ナリニタレバ桑名
 郡ニ中臣神社トテ古社ノアリタルヲ中臣ト唱
 フルカラハ藤原氏ノ氏神ト心得アママリテ何
 シカ春日大明神ト稱ヘ奉ル事トハナリタルナ
 リ然有テ謬ナガラニ遷奉沙彌道禪ノ當社古繪
 八日ニ春日大明神勸請ノヨシニ見エ公私瓜録
 二正應二己丑秋八月十八日氏人相計テ西方ノ

中臣神社 總走金

山上ヨリ春日大明神ヲ以テ遷於此三猶アカス
 松原垂迹三崎大明神靈地ト見エタリ
 ヤアリケム永仁三年ニ建御雷神齋主神建御雷
 護景雲年中ニ常陸國鹿嶋郡鹿島神宮ヨリ奈良
 へ遷座ノ時ニ祭祀シ齋主神ハ天應年中ニ下總
 國香取郡香取神宮ヨリ勸請スト天兒屋根命比
 モ云ヒ傳フレドイカバアラム
 賣神ノ四座ヲ大和國添上郡奈良ノ春日神社ヨリ
 勸請シテ合祀タリ沙弥道禪ノ當社古繪圖ニ正應
 三年八月十八日マ夕春日大明神ヲ勸請アルニ
 シヨシニ見エ桑名ノ舊家味岡ト云フ者ノ家ニ傳來
 紺紙金泥ノ古文書ニ神永仁四年丙申八月從
 敬奉勸請申春日大明神永仁四年丙申八月從
 梁野奈良江上野村一若太夫兩人差遣則伊賀越
 仁貞辨郡桑部村迄致御幣帛供奉於桑部村一
 幣奉成御鎮座其後於升田村構御旅所奉遷御
 幣奉成御鎮座其後於升田村構御旅所奉遷御

三十八日勢州桑野村江奉成勸請而御幣帛奉遷
 在所長久萬民豐樂宗廟神者也仍旨趣如件
 在永仁四年丙申八月十八日星野慶元花押
 此ノ文書ハ明治十九年二月廿六日ノ火災ニ燒

失セリ當時ノ眞物トシモ神庫ニ藏ムサテ北勢古志
 ニハ然レド舊社家富控廣蔭マタ御巫清直翁ト
 セリ無下ニ近世ノ作物ト禪ノ古繪圖ハ今モ神
 ドラノタアルゾ宜ナモル又道禪ノ古繪圖ハ今モ神
 セラノタアルゾ宜ナモル又道禪ノ古繪圖ハ今モ神
 庫ニ藏ル物ナリテ甚モ於是彌古ヘニ遠ザカリ專
 確實ナル物ナリテ甚モ於是彌古ヘニ遠ザカリ專
 此ノ稱號ノ唱へ年經テ近古慶長ノ頃ニイタ
 リテハ中臣神社ハモトヨリ其ノ本社タル桑名
 神社ヲサヘ知ル人稀ニナリヌサテ此ノ勸請ノ

ヲリシモ世ノ中亂タレバ鎌倉將軍一品式部卿
 久明親王ヨリ兵士ヲ出シテ神輿ヲ護衛アラセ
 給ヒキ今ニ此ノ例ノ遺リケル事然有バ春日大
 神四座ハ相殿ニマス神ナリ建御雷神ハ御名ニ
 負給ヘル如ク神德ノ建ク雄々シクマシテ神勲
 ノ絶倫タマヒシ事ハ古事記日本書紀古語拾遺
 等ニ見エタリ齋主神ハ經津主神ハ亦ノ御名ニ
 テ其ノ御名ヲ負給ヘル故ハ皇御孫命ノ祭ノ主
 トナリ給ヒツレバナリ又神德ニ神勲ニ建御雷
 神ト二神ニシテ一神ノ如ク同クマス事ハ日本

書紀古語拾遺等ニ見エタリ天兒屋根命ハ中臣
 御祖神即藤原家ノニテ神事ノ宗源ヲ主トシ
 太古ノト事モテ皇御孫命ニ仕奉リ給ヒ且種々
 ノ功績マス事ハ古事記日本書紀等ニ見エタリ
 比賣神ハ其ノ妻神ニモヤラス
 サテ此ノ兩社ノ相并テ鎮座事ナリテヨリハ
 伏見天皇正應二年八月ニ御勅使ヲ差向給ヒテ
 御祈アラセタマヒ永仁四年九月ニ其人報賽ト
 シテ桑名郡ニテ神領百町燈油料三十町ヲ奉テ
 セ給ヒタリ又鎌倉室町歷代ノ將軍ニモ崇敬

リテ神領ノ御寄附ヲドモアリシガ就中鎌倉將
軍久明親王ニハ格別御崇敬アラセテトキ如此
テ攝社末社マタ禰宜社僧モ夥多アリテ年中ノ
神事ヲ嚴重ニ仕奉イトゞ御榮マシツルヲ應仁
ノ頃ヨリ世ノ中漸々ニ亂ユク隨ニイツシカ神
領ハ武家ニ押領セラレテ攝社末社二十餘社年
中ノ神事九箇度禰宜社僧別當院社僧五坊祿
ニ家ハ等モ僅ニ殘テ御社モ甚ク衰へ又然有ヲ
元龜年中ニ正三位内大臣織田信長公ヨリ神領
ノ御寄附アリ天正二年ニ織田家臣瀧川左近將

監伴宿禰一益長島城ニ居テ桑名ヲ兼領シ社殿
ノ造營アリタレバ衰微ナガラニ維持ノ道ハ得
タリヤテ徳川幕府ニイタリテハ殊ニ崇敬アリ
テ東照神君ヨリ神領百石御寄附ニ付水谷氏ノ
文書ニ

春日御神領如前々高百石桑名三町懸之内ニ
而從内府様被進候大久保十兵衛殿御肝煎目
出度御納所可被成者也以上

水谷九左衛門

慶長六年丑三月吉日

光勝 花押

桑名

神方 御衆中

此ノ文書イマモ神庫ニ藏ム桑名志ニ光勝ハ天
正年中ヨリ寛永年中マデニ兩度四日布ニ住シ
ト御代官ヲ勤ム又改テ神領百石御寄附ニ付忠勝
朝臣自筆ノ折紙ニ

為春日領桑名之内三町懸ニ而百石從將軍様
被為付候條永相違有間敷者也仍如件

本多中務少輔

慶長八年六月十五日

忠勝 花押

社僧衆

禰宜衆

此ノ折紙今モ神庫ニ藏ムサテ改テ此ノ折紙ヲ
出シ且海内兵馬ノ權モ名實トモニ當年ヨリ又慶
長六年四月廿四日ニ本多中務大輔忠勝朝臣子
息美濃守忠政朝臣桑名城ニ移ラレテヨリ故キ
蹟ヲ温テ御本社ヲハジメ攝社末社ノ改造マタ
ハ表門築地屏ノ營繕大鳥居高サ三間笹木ノハ
再建或ハ御車北市場南市場ノ寄附ナド次第ニ
絶タルヲ繼廢タルヲ興且御氏神ト信仰セラレ
タリキ同八年八月十八日ニ忠勝朝臣ヨリ桑名

城祈願料トシテ毎年廩米五拾石寄附アリ忠政朝臣ヨリモ神領貳拾石寄附ニ付黒印文書ニ

春日御社領事

一 貳拾石者

小山内

右如件

本多美濃守

元和二年九月十一日

忠政

在黒印

此ノ文書今モサレバ當時幕府ノ崇敬アリ領主ノ信仰ニヨリテ社殿ノ壯大ナル祭祀ノ嚴肅ナル漸メテタキ古風ニ立復ル事トハナリヌ如此

テ緝紳家武門等ニモ參詣ル人アマタ有テ神寶或ハ和歌ナド奉納ノ事モ多ク見エタリ慶長十

二年正月七日ニ近衛三貌院信尹公社參アリテ

七種ノ詠歌並ニ三十六歌仙ノ和歌ヲ書テ奉納

セラル種ノ詠歌ハ懷紙ニ七種ヨリユクサシ

ト書カレハ藤ノ氏ノ神ノ手向クイノユクサシ

和歌ハ佐色紙ニ書レテ掛軸トセリ三十六歌仙ノ

安永元年二月朔日ニ御社類焼ノ災アリテシガ

院家光公ヨリ東照神君御寄附ノ神領ヲ御朱印地ニ改

竹木等ヲモ併テ御寄附アリキ其ノ御朱印文書

伊勢國桑名郡御崎春日明神領同郡三町懸之内百石事任先規寄附之事全可收納并社中竹木諸役等免除如有來彌不可有相違者守此旨可專神事祭禮之狀如件

在朱印 慶安元年八月十七日

德川將軍嚴有院家綱公ヨリ御寄附ノ御朱印文

書二

伊勢國桑名郡御崎春日明神社領同郡三町懸内百石事并社中竹木諸役免除任慶安元年八

月十七日先判之旨佛眼院進止永不可有相違者可專神事祭禮者也仍如件

在朱印 寬文五年七月十一日

德川將軍常憲院綱吉公ヨリ御寄附ノ御朱印文

書二

伊勢國桑名郡御崎春日明神社領同郡三町懸内百石事并社中竹木諸役等免除任慶安元年八月十七日寬文五年七月十一日兩先判之旨佛眼院進止永不可有相違者可專神事祭禮者也仍如件

在朱印 貞享二年六月十一日

德川將軍有德院吉宗公ヨリ御寄附ノ御朱印文書二

伊勢國桑名郡御崎春日明神社領同郡三町懸内百石事并社中竹木諸役等免除依當家先判之例佛眼院進止永不可有相違者可專神事祭禮之狀如件

在朱印 享保三年七月十一日

德川將軍惇信院家重公ヨリ御寄附ノ御朱印文書二

伊勢國桑名郡御崎春日明神社領同郡三町懸内百石事并社中竹木諸役等免除依當家先判之例佛眼院進止永不可有相違者可專神事祭禮之狀如件

在朱印 延享四年八月十一日

德川將軍浚明院家治公ヨリ御寄附ノ御朱印文書二

伊勢國桑名郡御崎春日明神社領同郡三町懸内百石事并社中竹木諸役等免除依當家先判之例佛眼院進止永不可有相違者可專神事祭

禮之狀如件

在朱印 寶曆十二年八月十一日

德川將軍文恭院家齊公ヨリ御寄附ノ御朱印文書ニ
伊勢國桑名郡御崎春日明神社領同郡三町懸
内百石事并社中竹木諸役等免除依當家先判
之例佛眼院進止永不可有相違者可專神事祭
禮之狀如件

在朱印 天明八年九月十一日

德川將軍慎德院家慶公ヨリ御寄附ノ御朱印文書ニ
伊勢國桑名郡御崎春日明神社領同郡三町懸

内百石事并社中竹木諸役等免除依當家先判
之例佛眼院進止永不可有相違者可專神事祭
禮之狀如件

在朱印 天保十一年十一月十一日

德川將軍温恭院家定公ヨリ御寄附ノ御朱印文
書ニ

伊勢國桑名郡御崎春日明神社領同郡三町懸
内百石事并社中竹木諸役等免除依當家先判
之例佛眼院進止永不可有相違者可專神事祭
禮之狀如件

在朱印 安政二年九月十一日

德川將軍昭徳院家茂公ヨリ御寄附ノ御朱印文書ニ

伊勢國桑名郡御崎春日明神社領同郡三町懸内百石事并社中竹木諸役等免除依當家先判之例佛眼院進止永不可有相違者可專神事祭禮之狀如件

在朱印 萬延元年九月十一日

此ノ御朱印證文ハスベテ明治二年正月十日カニ内國事務局ノ命令ニ依テ返納セリ
クテ德川將軍台徳院秀忠公ニハ東照神君ノ折

紙ノマ、ニテ御寄附アリ 此ノ折紙ハ貳通トモ

朱印證文檢査席ニ持參ノ例ナリシガ綱吉公ノ時イタリテ持參ニ及ヌ昔ノ令違アリテヤニ

又 德川將軍文昭院家宣公ニハ正徳元年五月ニ綱吉公ノ御朱印文書ノ檢閲ノミニテ其ノマ、御寄附アリキ 此ノ時ハ諸國トモニ社寺領ノ御

サテ慶安元年ニ松平越中守定綱朝臣幕府ノ内意伺濟ニテ三町懸ノ檢地アリテ古ヘヨリ高ハ

百石ト云ヒケル地ノ高千百拾貳石九升九合トナリタルヨリ神領モ高百三拾壹石壹斗壹升四

合ニ増加セリ然有テ其ノ區域ヲ立テ渡置タラ

事ナレバ年貢モ或ハ滞^{トコホリ}ノ出来^{イテ}ベシトテ其ノマ
 打込^{ウチコメ}オキテ領主ノ殿ヨリ支配スル事ニ定^{サダメ}
 ラレキ三町懸三崎新田ノ兩地ハ古クヨリ衆名
 イマモ存在シ又久^{キウ}奈^ナサレド内々ニハ區域ヲ
 名^ナ所^{シヨ}圖^ズ會^ヘニモ^モ見^ミエタリサレド内々ニハ區域ヲ
 立^{タテ}オカレケム寛文七年三月十五日ニ記^シセル領
 主勘定所ノ三町懸田地帳面ニ、
 一上田八町七反四畝八步^{春日領百石分}
 此高百三拾壹石壹斗壹升四合
 但シ反付壹石五斗代

貞享三年ニ松平越中守定重朝臣ノ許可ヲ得テ
 三町懸三崎新田ノ兩地ヲ桑名町中ニテ耕作ス
 ル事ヲヤメ地子金トテ毎年ニ金四百五拾兩ツ
 上納スル事ニナリシヨリ神領へモ金五拾三
 兩三步銀三匁九厘ツノ分配アリテ物成ト共
 絶^エズ領主ノ殿ヨリ收納セリ桑名明細記ニ見
 一三町懸三崎新田兩御田地作^リ申^候義^町中
 迷^ヒ惑^ヒ仕^候此^ニ度^付數^年御^田地^訟申^上候^得共^相叶^中
 不^申候^所此^ニ度^付數^年御^田地^訟申^上候^得共^相叶^中
 子^壹匁^年金^四百^五拾^兩ツ^ノ分^配アリ^テ物^成ト^共
 被^下候^様各^々金^四百^五拾^兩ツ^ノ分^配アリ^テ物^成ト^共
 限^急度^被上^納可^仕難^候其^奉節^一度^ニ取^立申^候得^月

者難儀仕候間三月七月霜月三度ニ取集申
 候様可仕候町内若壹人ニ町々免高割付の通
 座候ハゞ其組中と申候免高割付の通
 日限少も無相違上可申候
 兩御田地今度被仰候中百姓身體潰作荒御
 公儀様へ被召上候時町中へ請取申候様
 各々様自御證文被蓋上候由得其意存候其
 の時ハ何時又御證文被蓋上候由得其意存候其
 割付可仕候仍而爲後一日如件
 貞享三年丙寅三月廿一日
 桑名總町中
 其ノ神領ノ物成地子金ノ配當ハ佛眼院ニテ記
 セル明和七年十二月ノ毎歲御物成米金割帳弘
 化三年十二月ノ御收納米割方扣等ニ

御修理料

御車料

別當所

一 高拾九石六斗六升七合
 一 金八兩銀四匁貳分五厘

一 高三石六斗四升壹合

一 金壹兩壹分銀拾四匁六分八厘

一 高七拾三石九斗貳升七合五夕

一 金三拾兩壹分銀五匁壹分壹厘

但シハツ割ニシテニツ分ハ佛眼院一ツ
 分ハ別當餘ハ一ツ分ツ社僧

社家

一高三拾三石八斗七升八合五夕

一金拾三兩三分銀九匁五厘

安永七年閏七月十八日拂^モアテ幕府ノ寺社
奉行ヨリ社家二月十八日^モ仰付テ^レ巫女^モ一
人十クナリ修理ノ配當ハ猶モ^モ任ニテ其ノ
三口分ハ御修理ノ料内^モ差置クコトナセ
ニ又社家ノ支給米^モ年々又竹水モ領主ノ殿
ヨリ修理料ヨリ支辨セリ^モ又竹水モ領主ノ殿
ヨリ下渡サル、定例ニテ毎年ニ收納スルハ正
月門嚴^{カトカサリ}神事祭禮等ニ用キル物ナリ正月門嚴ノ
竹木下渡願書並^ニ村々割符書ニ

以書附奉願上候

一松八拾貳本 長六尺七寸

内六本長壹丈

一大竹 六本 六寸廻り葉付

一小竹百八本 不殘葉付

一松 貳本 長七尺

一小竹八六本 葉付

一さる木六本 長三尺

右者三崎春日社并御本地堂正月御嚴松竹例
年之通當月廿日以前ニ請取申度此段奉願上
候已上

未十二月八日

社僧社家中連名

寺社御役所

- 一 竹四拾四本 抽井村
- 一 松三拾三本 小尾村
- 一 松三拾三本 溝野村
- 一 松拾八本 小山村
- 一 さる木六本 同村
- 一 竹四拾四本 中須村
- 一 小竹拾六本 大鳥居村
- 一 大竹拾六本 戸津村

此ノ願書割符書ハ文政六年記録ニ見エタリ此ノ外ニモ所々ニ記セリ神事祭禮竹水ノ事ハ御車祭ノ條ニイフベシ又幕府領主ナドヨリノ諸役モ御朱印ノマ、ニ總テ一社中へハ附加セラレズシテ本社地ヲハジメ境外攝末社地ナラビニ別當所社家社人屋敷地ナドモミナ御免除地ナリキサテ元和六年ニ松平隱岐守定勝朝臣神宮寺ノ修理アリ同七年ニ東福門院後水尾天皇ノ中官御名ハ和禁内へ御入興アリセラレシヲリ城中ニ建ラレシ御殿ヲ寄附アリテ神宮寺元禄十四年二月ヲ改造セラレタリ

キ寛永三年ニ河内守殿其ノ姓名イヨリ社家屋敷地五拾五坪寄附ニ付蜂屋氏ノ文書ニ

春日大明神爲御寄進從河内守殿於職人町角屋敷五拾五坪其方江被使候間諸役有間鋪者也

蜂屋忠兵衛 在判

寛永三年三月十八日

鬼島清太夫殿

此ノ文書寛延録ニ同六年ニ松平隱岐守定行朝臣樓門元禄十四年二月ノ造營アリ慶長七年ニ

忠政朝臣再建ノ表門ハ此ノ同十三年ニ松平越時北ノ裏門トセラレタリ中守定綱朝臣ヨリ佛眼院境内地百四拾四步寄附ニ付自筆ノ折紙ニ

佛眼院者歷世安置春日大明神社僧莫敢慢法供然境内狹隘而僧居迫近矣今因抽大樹御祈禱之精誠以其鄰地壹百四拾四步今附與之畢且被廣舊制之狀如件

越中守

寛永十三年八月十八日

定綱 花押

佛眼院法印御房

此ノ折紙イマノ神庫ニ藏ルヤテ明治元年閏四月ノ神祇事務局ノ布達ニ依テ同三年十月二十日ニ桑名藩廳ヨリ佛眼院當住別當性恒法印ニ神主轉職申附ラレシカバ還俗シテ姓名ヲ三崎葦牙ト改メ申附テ同十月十三日ニ同藩廳社寺局ヨリ神主屋敷地百四拾四步下付通達書ニ

此地百四拾四步其儘神主屋敷地ニ被下候事除

此ノ通達書今モ神庫ニ藏ム

同十五年ニ夕鐘樓並ニ梵鐘明神祇事務局ノ布

達ニ依テ取拂ハリサテ此ノ際トテ除クタル物

ナドヲコボチ其ノ他佛具ナリトテ除クタル物

ナルモ數多ナリキトゾレノ寄附アリ其ノ梵

鐘ノ銘ナラビニ序ニ

桑名春日大明神廟鐘銘并序

三宅正堅拜撰

勢州桑名益田莊置春日大明神廟而欽其奉承者歷代尚矣今城主越中守源定綱公就封于茲土之三年政令已均整夙化已浹和益又致力於神廟以輔治焉以墜茨焉既侈先例又壯後觀於是乎巫氏祝部及土豪等相聚喜曰方今兩暘以時年豐人樂惟明神之降祥固大守之篤敬靈貺孔昭孰不感戴乃普勸舉郡官士農工商賈婦女僧尼不擇貴賤高下同心合力弄俸拋財改作洪

鐘以登神庭而請余書事於戲寄哉鐘乎晨撞夕
叩冀神德之介爾景福

銘曰

東海故郡 是夫來名 神鎮人守 風淳俗清
于改追蠡 新發鉅鯨 匪播匪石 且和且平
曙氣霜爽 夜景月晴 瀏々澆々 鏘々鏗々
紆餘闐郭 悠揚溢城 春容山岳 浮泛滄瀛
魍魎潛竄 魑魅惶驚 坐禪出定 行旅登程
漁嵐晝涌 湘水晚澄 周庭參鼓 虞廟聞笙
踰々然率 洋々乎盈 無攻罪響 有教義聲

一簣不止 嘉衆力並 九仞既築 賀火器成
躬致齋戒 心存敬誠 以祀以祭 載烝載亨
伏願臣直 恭惟君明 父々子々 弟々兄々
朋良友善 男賢女貞 民各安所 物咸樂生
殃災日息 禎祥年呈 國家之盛 與鐘共鳴
寬永五歲次戊寅秋八月十三日

監事

鬼嶋主水佐親秀
佐藤宮内大輔之秀 神宮寺社僧
鬼島修理大夫尚真 淨江房春意

鬼島織部 佐孝秀 吉祥房 賢隆

石垣左近大夫重吉 佛眼院 豪三

郷司民部大輔正秀 總持房 長翁

鬼島采女佐正信 田中房 貞實

鬼島藤京大夫尚政

佐藤齋院信秀

治工 近藤丹波目藤久

同年中ニ長嶋城主松平能登守定政朝臣築地屏

ノ改造アリ 慶長七年ニ本多美濃守忠政朝臣營

洪水ノ災ニ罹リテ崩レタリニ寛文七年ニ御修理

料ノ積立金ヲ基本トシ松平越中守定重朝臣ノ

寄附ヲ以テ紫銅鳥居ヲ建立セリ慶長七年十一

十二月三日ニ立柱十三日ニ棟式ノ行事アリ

承應二年六月五日ニ朝臣ノ再建アリシ大鳥居ノ

紫銅鳥居ハ建立アリタルナリ然ルニ元文五年ノ

閏七月二十四日ニマタ大風ニテ倒レニ猶再興

アリシ事ナドハ下ニイフベシ又紫銅鳥居ノ再興

柱ノ太サ指渡シ壹尺九寸

柱ノ金ノ厚サ四分次手六分貫ヨリ上何レモ

厚サ三分根入五尺但シ厚サ五分上ニテ貳

貫下ヨリ高サ壹尺八寸五分上ニテ貳

丈五寸廣サ柱ノ中ズニテ壹丈八尺

沓石四尺厚サ貳尺五寸

敷石三尺五寸貳尺五寸

桑名神社

家巳少

廿五

冠ノ花輪違模樣表裏ニアリテ上リ藤ノ紋

大キ廿壹尺壹寸數表裏都合拾四

銘

華表巍々 惟直惟圀
神威可畏 保定萬年

裏

寛文第七、祀穰八月穀旦

治工 辻内善左衛門尉藤原種次

銘作者 味岡喜太夫 幽巖

同筆者 常信寺四代住 伯寶

寛延元 戊辰祀九月吉旦再興

冶工 種次四世

辻内善四郎藤原直貫

上棟式ニハ徳川幕府ノ役人モ出張アリテ甚嚴
重ニ儀式ヲ行ハレキ同年ニ定重朝臣御社ノ修
理アリ延寶四年ニマタ築地屏ノ再築アリ元禄
七年ニマタ神宮寺ノ修理アリ寶永三年ニマタ
神宮寺ノ建立アリ同年中ニ夕樓門ノ營造ナ
ドヲモセラレタリキ正徳三年ニ松平下總守忠
雅朝臣家臣ヲ遣シテ殘ルクマナク懇切ニ御社
ノ修理ヲナシ樓門ノ葺替ナドモアリ社殿ニ彩

色ヲ加ヘラレツ社殿ニ彩色ヲ加フルハ此ノ時ハマタ本ノ白木ヲ造トナリサテ當又兩正殿ノ額ニ面今藏ム神庫

三崎大明神

裏ニ

正徳三年癸巳七月吉日

桑名城主

從四位下左近衛少將下總權守源朝臣松平忠雅

表ニ

春日大明神

裏ニ

正徳三年癸巳七月吉日

桑名城主

從四位下左近衛少將下總權守源朝臣松平忠雅

中門ノ額 朔日ニ燒失ス

表ニ

三崎大明神

春日大明神

裏ニ

大哉神德至哉神威與天地共無窮者也恭惟
三崎大明神春日大明神者桑名鎮守也自古
尊崇無絕不佞幸浴恩澤寶永八年辛卯閏八
月十五日自備後福山城蒙台命移桑名城而
有近候監衛之旨同年拔同群任侍從正德三
年癸巳五月將軍宣下不佞奉使赴京師侍禁
庭拜任左近衛少將台命亦無違恩眷之渥不
堪恐懼顧夫神德之靈驗也於是新修扁額敬
表寸衷

正德三年癸巳七月吉旦

桑名城主

從四位下左近衛少將下總權守源朝臣松平忠雅

就官書佐玄龍

樓門ノ額 安永元年二月朔日ニ燒失ス

表ニ

神 德 重 熙

裏ニ

正德三年癸巳七月吉旦

桑名城主

從四位下左近衛少將下總權守源朝臣松平忠雅

就官書佐玄龍

等ノ寄附アリ享保十年ニマタ御社ノ修理アリ
寛延元年ニ松平下總守忠刻朝臣紫銅鳥居ノ修
理再興アリ即今ノ紫銅鳥居ナリ明治十一年ハ
寶曆二年ニマタ幣殿ノ修理アリキ同四年ニ淨
岸院殿正仁親王ノ御息所御名ハ竹姫徳川將軍綱吉公ノ養女ナリ後ニ薩
摩中務繼豊朝臣ニ嫁セラレ由ニ有栖川宮系譜ニ見エタリ
リ葵紋章挑燈寄附ニ付高野氏ノ折紙ニ

葵御紋挑燈

右

天下大平御祈禱

酉ノ御年御女儀

丑ノ御年御女性

御祈禱ノ奉免納ノ申候以上

寶曆四戌年十一月

芝御守殿

高野

衆名春日大明神別當

佛眼院

此ノ折紙今モ安永元年二月朔日ニ御社盡ク祝
融ノ災害ニ罹テ神寶記録等マテ多ク所燒失
リ此ノ社殿ハ燒失

中臣神社
走金

天并金張竹插彩
樂器善美ヲ插
額ヲ掲グ此ヲ額ハ世長草花
衛信尹公ノ筆額テハ書ハ高キ物ニテ色
參籠河ハ概ノ同口ナリ殿ノ佐光興ノ書ケ
石鹿ト云フ入作此物ノ殿ヨク中央道ニ書ケ
取御多ク社馬頭ノ作此物ノ殿ヨク中央道ニ書ケ
西四神事ノ石ヲ奉納スル其間ノ所ナリ右サハテ白敷五洲ニセ隔其敷瓦ナリテ左セリ
堅九尺許中央北十口四五間前二間ニ許透戸アリ建テタリ格角
子如シ其中央前ニ張リ附極彩日松開ク鶴ノ繪ニテ戸ケニ入リ
其ノ下九尺許ノ金張リ附極彩日松開ク鶴ノ繪ニテ戸ケニ入リ
此ノ後ノ戸常ニ閉祭方ニ春日開ク大ク明クテ神ノ口ヲケ
ツテ右ノ前方崎大僧二祭日開ク大ク明クテ神ノ口ヲケ
塗レモ正殿ア僧二祭日開ク大ク明クテ神ノ口ヲケ
擲タリ古ノ減口碑ニ御正躰ノ御室ハ高尺余弘ヲ

ハ九寸ニテ朱塗ナリ源三位賴政ノ寄進ナリト
傳クナリ階下ニ幣帛臺アリ高四尺六寸許
佑ミナリ同様ニ帛臺アリ高四尺六寸許
疊五節許雲絹縁毎除奉奠ス月三夕階下ノ
マ上タ四節祭禮等屋根ハ瓦葺外ニ面ハ皆坐シテ
女ハ慶長年中破損ナリ柱ハ見幣エタリ又本彫塗普
請ハ慶長年中破損ナリ柱ハ見幣エタリ又本彫塗普
後モアノ攝社モ破損ナリ柱ハ見幣エタリ又本彫塗普
レモアノ攝社モ破損ナリ柱ハ見幣エタリ又本彫塗普
セリ又本ノ後攝社モ破損ナリ柱ハ見幣エタリ又本彫塗普
用テ又本ノ後攝社モ破損ナリ柱ハ見幣エタリ又本彫塗普
門ヲ入テ右ノ方ニ圍ヲ古ヨリ別當佛眼院ニ樓
攝社母山神社ノ幸ニモ殘タレバ同月中ニ忠刻
朝臣假ニ拜殿神樂殿等ノ造營アリテ母山神社
ヲ御假殿ニ當ラレタリ天明五年ニ松平下總守

桑名神社
三十一

一 樓門 普請小屋

材木 壹棟

同月中ニ忠和朝臣御假殿ノ造營アリキ文化年

中ニ松平下總守忠翼朝臣覆殿安永元年ノ火災

テ壁ナリケルヲ此ノ時ヨリ移セリ即今ノ御

拜殿ノ造營アリ同元年九月二十三日ニ上棟式

ヲ鄭重ニ行ハレ又兩正殿明治七年十二月ニ覆

今ノ兩御ノ造營アリ同四年八月初旬ニ上棟式

正殿ナリ御遷宮式ヲ嚴肅ニ行ハレキ文政八年

十五日ニ御遷宮式ヲ嚴肅ニ行ハレキ文政八年

ニ松平越中守定信朝臣正殿ノ額二面今モ神庫

表ニ 裏ニ

三崎

文政八年九月廿四日

大

左少將源定信書

明神

表ニ 裏ニ

春日

文政八年九月廿四日

大

左少將源定信書

明神

寄附アリ天保年中ニ松平越中守定永朝臣樓門

即今ノ樓ノ造營アリ同四年九月廿五日ニ上棟

式ヲ鄭重ニ行ハレキ嘉永七年ニ有栖川一品大

勲位幟仁親王御筆ノ額、本紙ハ拜殿ニ掲、
藏、

表ニ

中臣神社

ヲ賜ハリタリ安政七年ニ舞臺ヲ再建セリ
ニ取毀テリサテ慶長九年ニ本多美濃守忠政朝
臣ハ奉納メテ舞臺ノ建立アリ年々ニ歌舞伎ナド
ノ奉納アリテ名優ノ演技モ時々ニ有タレバ世
ニ名高キ舞臺ナリケルガ安永元年ノ火災ニ燒
失明治十三年一月九日ニ舊桑名藩知事從五位
ス松平定教殿ヨリ定信朝臣ノカ、レケル額幕府
ラソ頃ニ江戸築地ノ藩第ナル當社ノ御分祠ニ掲
藏

表ニ

三崎大明神

春日大明神

裏ニ

文化五年八月廿二日

左近少將源定信書

寄附アリ又歴代ノ領主ヨリ毎年ニ桑名城祈禱
料正月鏡餅料等奉納セラレ、明治四年且諸人祈
願モ絶ズ有キ然有ハ慶長以來ハ徳川幕府ノ崇
敬厚カリシヲ以テ彌御榮マシツルヲ代々ノ領

主ニハ殊ニ御氏神ト信仰アリテ歳旦比與利御
車等ノ諸祭ニ參詣マツリ或不代參ヲ遣シナド
シテ甚モ懇切ニ仕奉ラレツレバ益古風ニ立復
テ御神徳ヲ仰奉ル諸人モ増加シテ神寶和歌等
ノ奉納ヲ始寄附物イト夥多ニナリ又今上陛下
明治元年九月廿五日御東幸アラセラレ植松少
將雅言殿ヲ御勅使トシテ幣帛ヲ奉ラセ給ヒ且
同日ヨリ十二月十八日還御アラセラルマデ
拜殿ヲ内侍所ニ神供井ヲ御膳水ニ用キサセ給
ヒ同二年三月十五日東京へ御遷都アラセラレ

シヲ以テマタ拜殿ヲ内侍所ニ神供井ヲ御膳水
ニ用キサセ給ヒ同六年四月郷社ニ定サセラ
レ同十四年六月縣社ニ列サセラレタリキ然有
ド中今ノ大御代ノ始ニハ幕府城主ノ太政封土
ヲ奉還セララルニヨリ神領ヲモ返納シ明治元
六年ヨリ十七年マデハ其ノ地子金ノ下賜アリ同
元年ヨリ四年マデハ社ノ用ノ又神佛ノ混合ヲ禁
竹水ヲヨリ下賜セラレタリ又神佛ノ混合ヲ禁
明治元年三月社僧ヲ廢神祇事務局ノ達社家
祇事務局ノ達社僧ヲ廢神祇事務局ノ達社家
ノ世襲ヲ止明治四年五月十四サセラレバ
神宮寺ヲコホチ別當社僧社家社人等モナクナ

リニタリ 明治六年五月十日ニ祠官一員ヲオ然
 有ニ今上陛下ノ大御心トシテ萬ノ事物ヲテタ
 キ古風ニ復サセ給ヒタル中ニモ神祇ノ御崇敬
 ハ殊ニ厚クセサセ給ハバ數百年間ノ習慣ヲ一
 朝ニ改革セラレシモ其ノ臣民タル氏子信徒ノ歸
 依モ淺カラズテ毎年ニ社殿ノ造營マタハ修理
 ヲ加ハ年中五十餘箇度ノ神事ヲ仕奉ナトシテ
 近古幕府ノ頃ノ御榮ヲ持續セレバ幾許ナク中
 古ノ盛觀ニ復ヌベシ

一 宮社間數

桑名神社

正殿

高欄

階

長壹丈四尺六寸 弘壹丈貳尺二寸 高壹尺五寸 葱花形四本各高貳尺五寸 長六尺 弘八尺

中臣神社

正殿

高欄

階

瑞垣 玉垣

長壹丈四尺六寸 弘壹丈貳尺二寸 高壹尺五寸 葱花形四本各高貳尺五寸 長六尺 弘八尺 高八尺 三方廼延長十丈貳尺五寸 三方廼延長十六丈八尺

拜殿 唐破風

内廂

内廂高欄

外廂

外廂高欄

階 左右

荒垣

神饌所

宿衛所

社務所

長四丈八尺 弘四丈

長四丈五尺 弘四丈

高九尺 弘四丈

長九尺 弘四丈

高四尺 弘四丈

各六尺 弘四丈

各八尺 弘四丈

長三丈 弘四丈

長六丈 弘四丈

長五丈 弘四丈

樓門 唐破風

東通用門

南通用門

北通用門

紫銅鳥居

神庫

東築地土藏 棟二

北築地土藏 棟二

西築地土藏 棟三

長三丈八尺 弘九尺

長六丈 弘六丈

長六丈 弘六丈

長六丈 弘六丈

高二丈 弘六丈

長一丈八尺 弘六丈

長一丈七尺 弘六丈

長一丈七尺 弘六丈

長一丈七尺 弘六丈

長一丈九尺 弘六丈

南築地屏棟

東長三丈一尺
西長三丈一尺
各高壹丈貳尺

神供井舎

長八尺

手水井舎

長六尺

手水舎

長七尺

石手水鉢

高三尺

南石手水鉢

高三尺

北石手水鉢

高三尺

石高麗狗雄雌

壹對

石燈籠

大小六基

真鍮釣燈籠

壹對

祭日

年中ノ神事ハ應仁ノ頃ヨリ減少シテ此ニ九箇

度トナレリ正月十二日御田植御神事同十三日

五月五日七月十一日八月十日然有テ慶長年中ニ

本多中務大輔忠勝朝臣再興アリテ四十六箇度

トナリ正月元旦二日三日修正御神事同日人

日季實御神事三日御上巳節御神事五月五日

午節御饌六月晦日御神事七月七日星夕節御

饌同日御太刀拭御神事同日祭同十七日石取表

名祭九月九日除少每陽節御饌每月朔日御神事(正

八日(八月十八日)ヲ除ク、月次御神事サテ石取表裏御神事桑名祭ナドノ沿革ハ下ニイフベシ
現在ハ大祭二箇度中祭二十九箇度小祭二十箇度トナリヌ

大祭 桑名祭

五月 十六日 比與利祭

十月 十七日 御車祭

中祭

一月 一日 歲旦御饌

三月 元始祭

二月 四日 祈年祭

十一月 十一日 紀元節御饌

七月 六日 石取御神事

十一月 三日 天長節御饌

廿三日 新嘗祭

每月 十七日 月次祭 五月十七日ヲ除ク

十八日 月次祭 十月十八日ヲ除ク

小祭

一月 三十日 孝明天皇遙拜

三月 春分日 春季皇靈祭遙拜

四月 三日 神武天皇遙拜

六月三十日 大祓

九月 秋分日 秋季皇靈祭遙拜

十月十七日 神嘗祭遙拜

十一月十五日 氏子祝日祭

十二月卅一日 大祓

毎月一日 日別御饌 一月八二日ナリ

比與利祭

桑名神社ノ大祭ニテ往古ヨリノ桑名祭ナリ見聞畧志ニモ七月十七日ハ三崎大明神祭ノ書ニ春日大明神ノ祭日ナルハ八月十八日ヲ桑名祭ト記セリ是ハ慶長ヨリノ事ニ

テ往古ヨリノ桑名祭ハ七月一日ニ流鏑馬御神事トモ唱テ天正ノ頃マデハ絶ズ騎射ヲ勤タリ舊記ニ毎年七月十日ニヒナリト見エタリ是ハ山城國愛宕郡加茂別雷神社ノ如茂御祖神社大和國添上郡春日神社ノ行ハル祭禮ニモ流鏑馬場ハ神前近キアタリニテ今ノ本町宮通ナルベシ沙彌道古繪圖ニヤサメ馬場昔ハ北南ニ百廿間今度ヨリハ北南へ七十五間トアリ此ノ圖今モ神庫サテ此ノ神事ヲ比與利祭トイフハ古ヘ騎射ノアリシ頃ヨリ氏人等ノ貞辨川今ハ町屋ニ往テ禊祓シ石持運テ馬場ノ修

繕ヲ為ツルニ、近年マデ石取御神事ニ地均
 使用セリ是レソ、其ノ途中ヒヤウリヒヤウリ
 ノ名殘ナリ、其ノ途中ヒヤウリヒヤウリ
 ト、謡ヒケルヨリ起テ、遂ニ負ヘル名ナルベ
 シ、舊説ニヒヨリ、ト云フモ、ハヒリノ音訛
 轉レテ、神事ノ名然ルニ、多クアラフ事ナク
 ハ、伊勢物ノ語ニ、右近ノヤウリト唱フムル
 有ル、後、石、ニ、真、辨、川、ノ、水、干、下、ハ、氏、人、等、ノ、ト
 櫻、又、ヒ、ヨ、刻、ニ、ハ、崎、ハ、船、津、ト、ヨ、ト、祝、言、ナ
 リ、和ヲ祝言ナトハ、又、比、表、ル、ナリ、ト、ハ、石、取、ニ、レ、言、ナ
 日、俗ヲ祝言ナトハ、又、比、表、ル、ナリ、ト、ハ、石、取、ニ、レ、言、ナ
 ク、祭、石、取、御、神、事、ノ、口、ハ、唱、フ、裏、ノ、離、ル、カ、比、取、ニ、レ、言、ナ
 アル、義、石、取、御、神、事、ノ、口、ハ、唱、フ、裏、ノ、離、ル、カ、比、取、ニ、レ、言、ナ
 ト、定、タ、ル、猶、ハ、考、フ、種、シ、マ、タ、リ、依、タ、ル、ナ、リ、與、一、ニ、

石取御神事トモ唱タルハ流鏑馬ノ廢テ後
 モ、襖、後、采、石、ノ、事、ノ、殘、タ、レ、バ、ナ、リ、見、聞、略
 載、セ、ル、老、人、ノ、話、ニ、三、崎、通、ハ、往、古、ヨ、リ、志、河、引、略
 間、兒、童、ノ、屋、川、テ、道、石、路、車、惡、ナ、リ、古、ノ、ヨ、リ、志、河、引、略
 修理、ス、其、ノ、後、セ、タ、リ、石、路、車、惡、ナ、リ、古、ノ、ヨ、リ、志、河、引、略
 童、ノ、所、為、ニ、例、フ、事、ト、ナ、リ、テ、石、取、御、神、事、ト、リ
 毎、年、七、月、十、七、日、ノ、祭、禮、ヲ、モ、テ、石、取、御、神、事、ト、リ
 由、ニ、見、エ、タ、リ、ル、如、ク、テ、古、ハ、殊、ニ、此、ノ、神
 事、祭、禮、ヲ、尊、重、シ、儀、式、モ、イ、ト、ク、嚴、肅、ナ、リ
 ツ、ル、フ、近、古、ノ、兵、亂、ニ、ヨ、リ、テ、衰、へ、ツ、イ、ツ、シ
 カ、流、鏑、馬、ハ、ス、タ、レ、慶、長、年、中、ニ、本、多、中、務、大
 輔、忠、勝、朝、臣、桑、名、町、割、ノ、改、正、ア、リ、テ、馬、場、モ

ナクナリニタリ然有ド祭禮ハ古式ノマニ
 マニネモゴロニ勤ラレシカバ次第ノ領主ニ
 モ絶ズオゴソカニ祭ラレキ慶長年中ヨリ
 ハ代参ヲ遣シテ祭式ヲ監臨セシメ又町奉
 行ハ宮通ノ町家ニ誥合長柄鎗十筋ヲ鳥居
 前ニ立並中人側ノ町家ニ所誥出張又氏人等モ
 シ足輕四人側ノ町家ニ相誥出張又氏人等モ
 慶長ノ頃ニハ古風ノ任ニ七月七日ヨリ毎
 日ニ町屋川ニテ楔袂シ笹竹ニ石ヲ取添ナ
 ドシテ社参ス且十四日十五日ニ町々思々
 ノ伎踊囃子アリ社参ノ後ヲドリハ城内ニ
 イリ領主ノ御覧アリ慶長自記ニモ慶長十
 八年七月十四日十五日

日ニヲドアリ御城内ヘイル其次第二十
 四日一番新町二番吉津屋紺屋町三番京町
 官通壺組十五崎通寶殿町三番江戸町北魚
 町風呂町三崎通寶殿町三番江戸町北魚
 組ト見サテ十七日ニ采石テ奉納セリ慶長
 エタリサテ十七日ニ采石テ奉納セリ慶長
 ニモ慶長十八年七月十七日ニ石取アリ江
 戸町ノ河口川口ニ唐船一艘南ニ一艘片町ニ
 鷲銅舟一艘其ノ後町屋川ノ往來ニ鉦太鼓
 ト見エタリ其ノ後町屋川ノ往來ニ鉦太鼓
 笛ナドニテ囃子ヲスル事ハジマリマタ小
 キ祭車ニ大キナル傘ヲ建テ緞子縮緬天鷲
 絨程々緋羅紗ナドノ水引ヲ莊飾囃子ヲシ
 ツ、市中ヲ引廻ス事モ起タリ桑名志ニ今
 事ニ用キル祭車ノ濫正徳ノ頃ニハ町々ノ
 觴ナル由ニ見エタリ

透物モ増加シテ莊飾モ美麗ニナレリ寛延
 頃ニハナホ七月七日ヨリ十七日マデノ
 御神事ニテ日々ノ襖袴町々ノ透物十七日
 ノ采石ナドスベテ慶長ノ昔ニ變ラズ行ハ
 レタリキ寶曆年中ニイタリテ七月六日七
 日ヲ石取御神事トシ十六日十七日ヲ比與
 利祭トセリ是ニ於テ比與利祭ハ專透物御
 神事トナリ寶曆四年御社頭ノ表門ヨリ六日
 此裏門へ出北魚町ヨリ殿ノ表門ヨリ六日
 北裏門へ出北魚町ヨリ殿ノ表門ヨリ六日
 參往十七日五ツ半時ヨリ東川口宮通ハ入橋
 誥ニ本又揃次第ニ馬城内ハ入南大手ヨリ片

町ニ出テアツルニ殿町ノエタリ行政年中ニ領主
 ノ通リテ町家ニ出テ奉行寺社奉行ナクナ
 官通ノ町家ニ出テ奉行寺社奉行ナクナ
 町出張所ノハ朝五ツ時テ透物ノ順次
 中ヨリ適宜ニ市甚モ花麗ニ且優美ニテ近國
 ヨリ參詣ル人々イタク群集シタリキ見聞
 馬モ例年七月十日ヒヤウリ神事ハ傳
 リ屋形車或ハ崎門マデノ花賣出立ニ小
 袖賣出立踊屋人出立大名出立ヨリ種々立
 花美高サテ餘屋臺上ノ品々幕張タ尺ノ
 上ヲ高サテ餘屋臺上ノ品々幕張タ尺ノ
 ナルヲ各飾廻布又御車ニ輻輳ノ透
 物ヲ各飾廻布又御車ニ輻輳ノ透
 ソホヒイダ重シ濃美ノ兩國マシ遠近ノ見
 桑名神社 縁起抄 四十三

中臣神社 總走金

ハ春日神社トシニミ明治ノ中臣神社ノ御代ト共ニ古
ニ知入稀ナリシニモ其ノ頃ツギツギ御遷
座アリケル本社相殿ノ大神等ノ神輿ノ形
ノイツシカ變轉シテ二輛ノ御車トナリシ
ナリ正應年中中臣神社ノ御遷座アリ
請キサテ當時ノ桑名ハイハユル市場ナリ
シカラニ兩車ヲ北市場御車南市場御車ト
唱タリト見ユ沙彌道禪ノ當社古繪圖ニ市
トモイヘリ今ハ北魚町ノ鎮守トナル又末
社ニ北市場ハ幡又社未トイヒ南市場ハ幡
リ町今ハ氏泡洲崎ハ幡又社未トイヒ南市場ハ幡

桑名神社 桑名少

町南組ノ氏神トナル又寛文年中ニ真山ト
云フ南僧ノ作レル桑名十景歌ノ序ニ華表
之南北開舗成市遐邇蓋簪玉帛麻絮布檝
比或負薪莖買鹽穀或荷兼蔬市鱗介山珍海
錯交易而退後見エ又見關略志ニ市場ト云
フ事ハ祭ノ後ニ所止セリ又久波奈
名所今モ人ニ口ニ殘レリト見ユ然レバ桑
ノ市場ハ今モ人ニ口ニ殘レリト見ユ然レバ桑
ノ市場ハ今モ人ニ口ニ殘レリト見ユ然レバ桑
ナリテ今ハタリシテ當社ト共ニ其ノ唱モ残
リカクテ慶長以來ハ殊ニ此ノ神事ヲ重
シ絶ズ領主ノ殿ヨリオゴソカニ祭ラレ
年中ヨリ領主ニハ本多中務大輔忠勝朝臣
本多美濃守忠政朝臣ト次第松平越中守臣
綱朝臣マデハ毎年參詣アリテ北森下本町
角鳥居北角等ニ有リ社家ノ宅ニ祭禮

ヨリ出納文書アリ
 神面奉納文書アリ
 市場ノ調樂式アリ
 南ケルノ廢寺
 彌陀寺ノ廢寺
 延記寺ノ廢寺
 有行ノ事ニ
 テ行フ事ニ
 龍所ノ調樂
 十自ナレバ月見會トモ云ヒキマ
 二淨土寺ニテ北市場ノ調樂式アリ
 列座ノ僧ニ對シテ
 祭當番ノ町年寄十七日ニ御車ヲ飾ル
 ヨリ響應セリ
 八尺モ其ノ中一尺餘横一尺四寸上七

ラ三箇トナシ上左右ニ畫ガキノ餘附
 木ニ狹ミテ立ケ板ニ畫ガキノ餘附
 装束ノテテ黒塗ケテ中ノ物ヲ持テ
 リ廻テ金張付丹子ヲ繪ガキナリ
 子ニ數ク廻テ金張付丹子ヲ繪ガキナリ
 ハ數百金ノ附中ニ幕ヲ張リハレ上ニ挑
 灯數百金ノ附中ニ幕ヲ張リハレ上ニ挑
 ノ由ニ車ニ出エテ同ジニ紗張リノ籠
 キ由ニ車ニ出エテ同ジニ紗張リノ籠
 御車前ニ出エテ同ジニ紗張リノ籠
 市場御車前ニ出エテ同ジニ紗張リノ籠
 ア場御車前ニ出エテ同ジニ紗張リノ籠
 リ十ハ日ノ渡式
 詰ス此所ニ當社僧アリ
 此所ニ當社僧アリ
 市場御車前ニ出エテ同ジニ紗張リノ籠
 年寄御車前ニ出エテ同ジニ紗張リノ籠

スハ度ノ時ニ、社家任官ノ者ハ東門外ニ齊
者ハ符衣ニテ、神樂所ヨリ出テ、樓門ニ
列ス其ノ内ヨリ前ニ進出シ、下ニテ、市
年寄モ二、人其ノ前ニ進出シ、麻上ノ時、
リ豫テ樓門前ノ南ニ進出シ、市場ノ下ニ
一、本毎ニ米藁ヲ以テ、一ハ棹、二ハ所、
ト、本毎ニ米藁ヲ以テ、一ハ棹、二ハ所、
本、毎ニ米藁ヲ以テ、一ハ棹、二ハ所、
ス、社家ト、北場、東場、南場、北場、
テ、北場、東場、南場、北場、
寄、進、出、御、寄、復、次、南、市、
市、場、進、出、御、寄、復、次、南、市、
殿、納、渡、次、渡、御、式、奏、樂、式、
前、場、御、渡、次、渡、御、式、奏、樂、式、
ヲ、前、場、御、渡、次、渡、御、式、奏、樂、式、

刀ヲ贈ル夫ヨリ、北門前へ渡御ニアリ、
ヲ、前、場、御、渡、次、渡、御、式、奏、樂、式、
機、數、出、ス、時、兩、車、ヨリ、
テ、差、出、ス、時、兩、車、ヨリ、
ハ、淨、土、寺、ヨリ、
南、市、場、ノ、町、寄、
シ、ノ、神、前、ニ、
附、添、テ、兩、車、
受、取、テ、小、姓、
御、上、下、ハ、綱、
人、御、車、ノ、左、
町、宮、通、ハ、左、
下、ヲ、着、股、立、
水、ヲ、入、レ、立、
際、甲、冑、武、者、
シ、時、ニ、鎌、倉、幕、府、ヨリ、
護、衛、セ、シ、メ、倉、幕、府、ヨリ、
桑、名、郡、上、野、村、

ノ禰宜君太夫一太夫ト云ヒシ者供奉仕ヘ
 マソリタリシ遺風トテ毎年祭禮ニ同村ヲ
 禰宜二人甲冑武者十餘人ヲ奉行宅ニテ御
 警固ス其ノ次第ハマツ町奉行宅ニテ御領主
 ヨリ酒ヲ賜フ夫ハ禰宜ニテ寺ヲ錫ヲ具テ
 太カヲ佩一ツ人ハ禰宜ニテ祝盃ヲ舉テ列シ
 ハ長ヲ渡御賜ニ供奉スルナリ神事賜テ領主
 御車ノ刀ヲ御賜ニ供奉スルナリ神事賜テ領主
 ナレリ但慶長年中ヨリ定綱朝臣マテハ領主ト
 ノ御前ニ召出シテ賜サレリ其ノ他種々
 後ハ町奉行ヨリシテサレリ其ノ他種々
 ノ儀式アリ長ヲ恐テ瀰シクマ欲クハ明治
 維新ノ際テ領主ヨリ使者ヲ遣ソノ由ヲ
 幕府ヘ申サル、例ナリ然有ハ慶長ノ頃ヨ
 リハ一二桑名祭トモ唱タリ此ノ名目ハ誹

見エテ世ニ知ラソモ、明治ノ初年頃ニ
 レタル稱號ナリソモ、幾程モナクテ祭式
 ハ甚ク衰ヘタレド幾程モナクテ祭式饌朝
 御饌奉幣等ヲ古儀ニ復シ御車ノ諸式奏樂
 ノ諸式ナリ等々再興シテ年々ニ進歩シ往
 曾ナリモ漸々ニ再興シテ年々ニ進歩シ往
 等ナリモ漸々ニ再興シテ年々ニ進歩シ往
 クメレバ昔日ノ盛觀ニイタラム期モ尚ア
 リヌベシ

慶長八年ニ本多中務大輔忠勝朝臣北市場
 南市場ノ御車二輛改造アリ慶長八年卯七月
 廿八日ニ御車ノ造作ハジマリ八月十二日
 ニ上道具マテ悉皆出タリ但一輛ノ軸
 輪狹ノ出テ来ズ又出テ来タリ車輪モ薄
 バト熊野へ大材木ノ注文アリ同九年辰

八月三日 到着ス御城ヨリ總決工源七
 十月十日 出テ大工廿人出テ着ス御城ヨリ總決工源七
 來上タリ依テ張シ御城ヨリ御奉行三人御大工
 九郎三郎出張シテ二輛ノ御車行ラ能見合ア
 ナリテ等分申サレテ北ヲタル市場南ヲ市場
 ナキ由申サレテ北ヲタル市場南ヲ市場
 ハ引渡エタリタル元和七年ニ松平隱岐守定
 勝朝臣マタ改造アリ寛永六年ニ松平隱岐
 守定行朝臣御車供奉武者ノ甲冑十五領寄
 附アリ瓊ノ真向鎧ノ胴板ニ葵紋ヲ附タリ
 サレ甲冑ヲ借渡同十五年ニ松平越中守定綱
 朝臣北市場南市場ノ御車二輛ヲ大キニ改
 造アリテ今繕ハ神事々ニ用キルナリキテ三拾

六人ノ氏人ノ即町年寄ニ佩刀セサセ支配町
 ヨリ若黨ヲ出サシメ槍ヲ持セ馬廻格式ニ
 テ神事祭禮ヲ勤ムル事ニ定メラレキ下里
 用記ニ國家ノ變亂アル時ハ北市場御車ヲ
 三崎門ニ南市場御車ヲ傳馬町ニ出シ矢倉
 城トシテ町年寄ニ堅メサセムトノ下心ア
 リテ御車二輛ヲ大キニ改造シ町年寄ニ神
 祭ヲ馬廻格式ヨリ町勤シ百姓ラダリニ佩刀天和
 三年ニ幕府ヨリ町勤シ百姓ラダリニ佩刀天和
 止ノ令アタル由ニ馬廻格式ノ寛文三年ニ宮通
 事ハ止タル由ニ馬廻格式ノ寛文三年ニ宮通
 ヨリ御車供奉武者ノ長刀十四振鉾一筋寄
 進アリ今ニ神事ニ元禄五年ニ本町上組ヨ
 リ御車供奉武者ノ太刀十五振寄進アリ今

神事ニ用キルナリサテ是ヨリ以前ハ神事
 ゴトニ城中ヨリ太刀長刀トモ備渡サレタリ
 寶曆元年ニ松平下總守忠刻朝臣御車供
 奉武者ノ甲冑十五領寄附アリ
 練緯威ナリキ今神事ニ用キルハ數
 年前ニ宮通ヨリ寄進シタル物ナリ
 御社ニ用キル竹木ハ徳川幕府ノ御朱印ニ
 テ領主ヨリ渡サル、例ナリシガ此ノ神事
 祭禮ニモ毎年納メラレタリニ明治四年サテ
 此ノ神事祭禮ニ渡サルハ竹木ニ付毎年領
 内ノ村々へ課役ノ通達書並ニ割符書ヲ出
 サレキ御巫清直翁ノ云フ大和春日社若宮
 祭禮ニ八月十一日ヨリ御旅所假御

殿並ニ諸假屋造立ノ用木ヲ大和國中十五
 郡ノ内ニ役人東西修理ノ目代エ杣等相共ニ
 行々ニ送木ヲ改伐置ソノ村々ヨリ修理目
 代ハ運送スル式アリ是ニ准ジテ領主ノ所
 管部内へ課役スル例ナリシナラム餘社ニ
 比例ナキヲ以テ見ルナリシナラム餘社ニ
 ベシト云ハレタリ

就春日祭禮入用之竹木如例年無相違來
 ル十日自内ニ急度持參候様ニ可被申付
 候割符之書付別紙使候以上

寅八月五日

井平兵衛花押

岡四郎左衛門花押

水利兵衛花押

過 勘 平花押

中 角左衛門 花押

下深谷部村印

抽井村印

力尾村印

古野村印

美鹿村印

市之原村印

中津原村印

鼓村印

東貝野村印

西貝野村印

下平村印

二之瀬村印

田邊村印

日内村印

長尾村印

市場村印

本郷村印

丹生川村印

大泉村印

筑紫村印

森忠村印

右御代官衆中

覺

一六本 葉松 下深谷部村印

一拾束中 かり竹 同 村印

但五拾本結

一拾貳本 櫻 大泉村印

一拾本 同 中津原村印

一拾本 同 鼓 村印

一六本 同 東貝野村印

一六本 同 西貝野村印

一六本 同 筑紫村印

一六本 同 下平村印

一拾五本 梅 市之原村印

一拾貳本 同 抽井村印

一拾貳本 同 美鹿村印

一拾三本 同 古野村印

一三本 同 森忠村印

一四駄 檜葉

本郷村印

内

貳駄 市場村印 自乘名へ出ス

壹駄 日内村 自乘名へ出ス

壹駄 長尾村 自乘名へ出ス

一三拾 本手子木

二之瀬村印

但長九尺二九寸廻

是八畑毛村塩崎村自上水村へ出

不上水村印 自乘名へ出ス

一拾 本大竹長五間 力尾村印

一貳拾 本同六寸廻リ 丹生川村印

右ハ春日祭禮入用候如例年無相違可相渡者也

寅ノ 在判

八月五日 御勘定所

村々庄屋

覺

一春日祭禮入用之竹木并檜葉御勘定所
證文之通伐進可申候已上

寅八月八日

吉田五郎右衛門 在判

江間善五左衛門在判

二	市	下	西	東	鼓	中	大	下
之	之	平	貝	貝		津	和	深
瀨	原	村	野	野	村	原	泉	谷
村	村		村	村		村	村	部
								村

右	力	袖	森	筑	丹	美	古	本	田
村	尾	井	忠	紫	生	鹿	野	郷	邊
之	村	村	村	村	川	村	村	村	村
庄					村				
屋									

此ノ三通ノ文書ハ又町年寄ヨリ神面貳箇
奉納ニ付文書了リ

瑠璃山光明寺昔日氏寺而秋八月十八日

祭禮之會處也故尋舊儀以奉寶納丞春日

神與姥三崎大面於寺院鎮守天王頭也將祈

天長地久而已

元和五己未年八月四日

飯田二郎左衛門花押

太田宗兵衛花押

伊藤八郎左衛門花押

太田久兵衛花押

味岡市左衛門花押

立木二郎右衛門花押

伊藤彦兵衛花押

太田孫四郎花押

伊藤兵左衛門花押

下里藤左衛門花押

矢部孫兵衛花押

太田宗太輔花押

伊藤六左衛門花押

服部又右衛門 花押

味岡作太夫 花押

下里彦 五花押

太田茂兵衛 花押

樋口六兵衛 花押

味岡才右衛門 花押

鈴木傳左衛門 花押

伊藤忠左衛門 花押

太田忠右衛門 花押

下里次郎太夫 花押

立木治兵衛 花押

立木吉右衛門 花押

太田宗忠 花押

立木與左衛門 花押

星野角兵衛 花押

伊藤市郎右衛門 花押

水谷十一兵衛 花押

味岡小八郎 花押

伊藤才三郎 花押

世古兵助 花押

右之御寶物三ヶ村年寄立合為末代之印
奉納鎮守者也仍連判如件

此ノ神面貳箇ハイマ奉納文書ノ夥ト共ニ
神庫ニ藏ムサテ三ヶ村ト云フハ桑名ノ古
キ俗稱ニテ慶長御記ニ慶長九年六月十八
日亥刻春日大明神遷宮三ヶ村ヨリ神馬
三足引クト見エ袖野山見聞記ニ或人ニ乘
名ノ昔傳ヘ聞クニ古桑名ハ西方東方
ト別々方崎地ハ渺々シクテ諸民住居シ其ノ
洲ノ寄ハ三ヶ村ニ繁昌シテ農漁ノ住居ナリシニ
イッテシカ諸民多ク勝桑名三ヶ村トイヘ
ル頃ニナリ又本多忠勝公桑名町割ノ時ニ
魚町ヨリ北ヲ自凝洲寄トシ新町ヨリ宮通ヨリ
吉津屋マデ北ヲ自凝洲寄トシ新町ヨリ宮通ヨリ
デ泡洲崎トシ鳥洲崎トシ新町ヨリ宮通ヨリ

石取御神事

寶曆年中ニ比與利祭ヨリ別シ御神事ニテ

毎年七月六日七日ナリサテ五日ニ毎町祭

車ヲカガリ六日ハ未明ヨリ祭車ノ鉦太鼓

ヲ打雜子ソノ町々ヲ回轉ス是レ均ト云フ

地ノ義ナリトゴサテ後ニハ六日ニ限テ

用キルヲ祭車ト囃テ七日祭車ト別ニナ

車ノ然タル祭車ノ美麗ニナリテ一日ニ古

四年再興ノ時ニナリハ晝頃ヨリ町屋川ニユキ橋西

ニテ石ヲ儀ニ采入キタリ祭車ヲ吉津屋町
 鍛冶町マタ新町マデニ並列祭車ノ前後ハ
 リ其ノ石ヲ載セ日暮ヨリ紙細工ノ作物或
 ハ山形ノ挑燈ニ點火シ鉦太鼓ヲ打ウチ籬子シテ
 神前ニ奉納ス寶曆四年ノ書上ニ七月七日
 追々ニマキリ町屋川橋西ニテ石少々儀ニ
 入レ參候物ノ車ハ暮頃ヨリ石津屋町北
 ノ端ヨリ七ツ屋マデニ並右ノ石ヲ車ニ
 セ概渡スリ車敷三石十六日表門ヨリ入
 社ニ見樂所ノ間サテ彼人納置表門ノ方ニ
 由リ又見樂工タリ御覽アレバ川是ヲ渡祭
 アノ角櫓ニ主テ在城ナレバ川是ヲ渡祭ト
 口ノ解櫓ニ主テ在城ナレバ川是ヲ渡祭ト
 マ夕本樂トモ云フ年七月七日

マニテ垂テ附ニ氏ノ人等町屋川ニ襦袢シナ
 竹シテ社參夜中ハ鬼燈ヲ屋川ニ襦袢シナ
 ドリヤヒヤウリ途トニ春日様ノ石ヲ取テ添シナ
 ウリヤヒヤウリ途トニ春日様ノ石ヲ取テ添シナ
 テリマ七藩士中赤須賀ナドヨリ奉納スハサ
 テラ舟ハテ町々須賀ナドヨリ奉納スハサ
 石ヲ舟ハテ町々須賀ナドヨリ奉納スハサ
 竹ノ篋ヲ立テ注連繩ヲ張リ太鼓ヲ後寺院ヨリ
 借テ引行テ町屋川ノ籬子ニテ福江町邊
 マイッ引行テ町屋川ノ籬子ニテ福江町邊
 リイッ引行テ町屋川ノ籬子ニテ福江町邊
 ニ今ノ鉦太鼓ハ祭車ハ始テ寛保長自記寛
 延記見聞略志久波奈名所圖カクテ年々ニ
 會マタ見聞略志久波奈名所圖カクテ年々ニ
 祭車ハ美麗ニナリ車數モ増加シテ文政十
 リ東鍋屋町西鍋屋町東矢田町西矢田町北
 福江町南福江町六箇町モ各祭車ヲ出テ北
 渡祭ノ列ニ加ハリタイツシカ比與利祭御
 ル由舊記ニ見エタリイツシカ比與利祭御

中臣神社 終走金

知ルベカリニシテ注連付キ事ニコソ然レドカ
 二神事祭禮ニシテ連付キ事ニコソ然レドカ
 ナタリ天平十九年ニ聖武天皇神宮寺ヲ社地ニ御
 建立アラセ給上由緒ノ條正應二年ニ今ノ中臣
 神社ヲ遷座セリ由緒ノ條ソレヨリ兩社ノ社地ト
 ハナリ又北勢古志ニ寛政年中火災ニ枯テ今ハ捕
 へニナガテテテテテテテテテテテテテテテテ
 中ニモ成木トイフ物ナレバ其ノ下ト云フナキ
 事ヲ知ルベク今モ千歳ノ根ノ餘コベシトモ森下ト云フナキ
 見エタリ今モ千歳ノ根ノ餘コベシトモ森下ト云フナキ
 僧ナレバ詳ニセドソノ當社古繪圖ニ今モ神庫ニ神
 前近ク流鏑馬ノ利祭ノ條ニ事ハ此與馬場アリテ北

南百廿間ナリケルヲ此ノ時ヨリ七十五間トナ
 ンリ又馬場ノ南末ノ東ニ車ノ事ハ御車置所
 アリ神前ノ東西ニ北南十間ノ車大路アリ又車
 大路ノ東ニ御手洗河アリテ橋ヲ架セリ橋ノ西
 北ニ市神社末社ナリ今ハ北アリ西南ニ池アリ
 又流鏑馬場ノ東車大路ノ北ニ五戸南ニ三戸
 ノ人家邊トオボシキ今ノ廣小路ノ西南角ニ居
 アリノ社家アリキ然有バ中古マデハ社地モ大方
 ナラズ廣カリケルヲ近古慶長六年ニ本多中務
 大輔忠勝朝臣桑名町割五月長自記桑名町割ノ事
 桑名神社 縁起 少

一 社領

近古度々ノ火災ニ記録ノ焼失セレバ今詳ニハ知ガタケレド止代ニモ神田神戸ナド有タリト見ユサテ永仁年中ヨリノ社領ハ左ニ記シツ

高百三拾町

桑名郡内

伏見天皇永仁四年九月ニ足利殿御代官畠山氏御肝煎ニテ御寄附

高八百石

桑名郡三町懸

高三百石

桑名郡上輪村

正平年中ニ室町幕府ヨリ御寄附

高五百石

桑名郡三町懸

高三百五拾石

桑名郡上輪村

元龜年中ニ織田内府信長公ヨリ御寄附

高百三拾壹石壹斗壹升四合

桑名郡三町懸

内

高三拾壹石壹斗壹升四合

百石社領出目

慶長六年三月ニ東照神君ヨリ御寄附慶安元年八月十七日ニ徳川幕府ヨリ御寄附地テアヲタメ御寄附同年ニ領主ノ驗地アリ減禄ト爲サダセリ明治七年ニ朝廷ヨリ遊セラレタリ

高貳拾石

桑名郡小山村

元和二年九月十一日ニ本多美濃守忠政朝臣ヨリ寄附

米五拾石

桑名城祈願料

糯米九斗

正月御供鏡餅料

慶長八年ヨリ代々ノ領主毎年寄附明治四年ニナクナリニタリ

金五拾三兩三歩銀三匁九厘

御朱印社領地子金

貞享三年ヨリ毎年収納ス明治七年ニ朝廷ヨリ遞減禄ト為サセラレタリ

竹木

社用料

慶安元年八月十七日ニ德川幕府ヨリ社領ト共ニ御朱印ニテ御寄附明治四年ニナク

ナリニ
タリニ

造營

近古度々ノ火災ニ記録ノ燒失シタレバ今詳ニ

ハ知ガタケレドフルクハ主ト社領ニテ造營シ

タリ慶長年中ヨリ明治ノ初年マデハスベテ領

主ヨリ造營セラレタリ然有下其ノ年度ハ定ラ

サリキ

一 攝社

應仁ノ頃ヨリ御社ノ衰ヘケル任ニ些ニ五社ト

ナレリ慶長年中ニ本多中務大輔忠勝朝臣ノ改

造セラレテヨリ代々ノ領主ニモ絶ス營繕修理
ナドアリキ上古ヨリ別所ニ鎮座タルモ都
レテ改テ造セラレド此ノ時ニ本社ノ域内ニ遷座
ベテ火災ニ罹リテ今ハ二社ヲ再建セリ

母山神社

本社域内

祭神

波母山神

相殿

大己貴神
少彦名神
神皇產靈神

山神社

祭神

大山祇命

本社域内

木花開耶毘賣命

正殿

瑞垣門

瑞垣

鳥居

須佐之男命
日本武命
宮簀媛命

長八尺
弘壹丈

弘八尺

高六尺
左右各壹丈貳尺
高壹丈貳尺七寸

正殿

荒垣

長貳尺五寸
高四尺
四方廻延長壹丈五尺

神明社

天照大御神

祭神

若宮社

祭神

未詳

荒魂社

祭神

未詳

末社

應仁ノ頃ヨリ攝社ト同ジクワヅカニ十九社門水

社多度社酒解神社熊野社白山社日吉社愛宕社住
 吉神八幡社茅竈神社高宮住吉トナレリ是モ夕慶
 市松尾社八幡社獅子社
 長年中二本多中務大輔忠勝朝臣七社水門社多
 神社熊野社白山ヲ改造セラレテ代々ノ領主ニ
 社日吉社愛宕社ヲ改造セラレテ代々ノ領主ニ
 災ニ罹リシナリ又大祭ニ古例ノ殘タルハ六社
 住吉神社八幡社南市場八幡社寶殿社アリキ此ノ例
 北市場八幡社又元和三年ニ天樹院刻朝臣ノ室名ハ
 止タリ又元和三年ニ天樹院刻朝臣ノ室名ハ
 千姫徳川將軍秀東照宮ヲ勸請アリ此ノ社ハ元
 忠公ノ女ナリ秀東照宮ヲ勸請アリ此ノ社ハ元
 月六日ニ燒失スレヨリ明治ノ文政八年ニ故
 初年マデハ燒失スレヨリ明治ノ文政八年ニ故

坪數

貳百五拾九坪

愛宕社

本社域内

祭神

火之邊具土神

正殿

長貳尺三寸
弘貳尺二寸

金刀比羅社

本社域内

祭神

大物主神

正殿

長七尺
弘六尺

稻荷社

本社域内

祭神

倉稻魂命

正殿

長五尺
弘三尺

皇大神宮御分靈社

本社域内

祭神

天照大御神

正殿

長四尺
弘六尺

瑞垣門

弘八尺

瑞垣

高六尺
四方廻延長五丈八尺

鳥居

高壹丈貳尺
弘壹丈

水門社

祭神

未詳

多度社

祭神

天目一箇命

酒解神社

祭神

酒解神

熊野社

祭神

櫛御氣野命

白山社

祭神

菊理媛命

日吉社

祭神

大山咋神

一 神官

宮司禰宜以下百餘家モ有シテ應位ノ項ヨリヤ

ヤハニ離散シテイツシカ社家六家官位ハ鷹

奏ニテ代々從五位下社人二家巫女一貞トナレ

國守ノ勅命ヲ蒙リ社人二家巫女一貞トナレ

リ明治三年十月廿二日ニ神主家一家院當佛眼

轉職シツヲ置カレキ同四年五月廿四日太政官

ニ神官ノ世襲ヲ止サセラレテ今ハ左ノ如シ

祠官

一貞

雇貞

四貞

樂貞

十貞

樂生

卅貞

一 寺坊

應仁ノ頃ヨリ漸々ニ衰へ往テ些ニ神宮寺一院
 御崎山護國神社ニ遺存セリ別當一貞寶興山佛
 ノ初年マデ社地ニ職ナシヲ明治ノ初年ニ至
 ノ代カツトメタル此ノ寺ハ延喜年中ヨリ神
 テ廢セラレキヤ宗ノ伊勢國ノ本山ニテイッ
 ノ寺ヲ兼住シテ天台宗ガリ勢ヲ國ノ山ニテ
 八日ニ比叡山延曆寺ノ末寺ナリ寛永十三年
 七月二日叡山寛永寺ノ末寺ナリ寛永十三年
 七月二日叡山寛永寺ノ末寺ナリ寛永十三年
 古刹ナリ宮テ大寺格未道筋ニセサセラレ緒
 社僧五負シ佛眼院末寺ノ代カツトメテラレ
 キ祭寺二院清水町ノ袖野山浄土寺新廢セラ
 同ジク明治ノ初年ニ廢セラレタリ往古ハ
 猶アマクノ初年ニ廢セラレタリ往古ハ
 タレド中ノ古ノ遺兵亂ヲ離散シテ其ノ儀
 此ノ院ニ古ノ遺兵亂ヲ離散シテ其ノ儀

二院モ神事祭禮ニハ唱フ預ル事トゾナレリ
 リニタクレバ祭寺トハ唱フ預ル事トゾナレリ

神宮寺

別當

佛眼院

社僧

定光坊

總持坊

大壽坊

妙圓坊

吉祥坊

一坊
 一坊
 一坊
 一坊
 一坊

祭寺

浄土寺

一院

光明寺

一院

明治元年三月

神祇事務局ノ建

ニ神佛ノ混合ヲ禁同年

閏四月

神祇事務局ノ建

ニ社僧ヲ廢サセラレテヨリ悉

皆ナクナリニタリ

一 氏子

明治ノ初年ヨリ桑名町中ニ社格ヲ定^キ氏子ヲ附^クラ^レシ社モ出^イ來^キタリテ其ノ戸數ハ減少シタ^レド神事祭禮ノ執行ハナホ舊慣ニ準據セリ

氏子戸數

一千三百九拾三戸

神事祭禮執行者戸數

一貳千六百九拾六戸

一神社ヨリ管轄廳マデ距離

拾貳里拾五町

明治二十四年二月廿五日印刷
明治二十四年三月二日出版

編纂兼
發行者

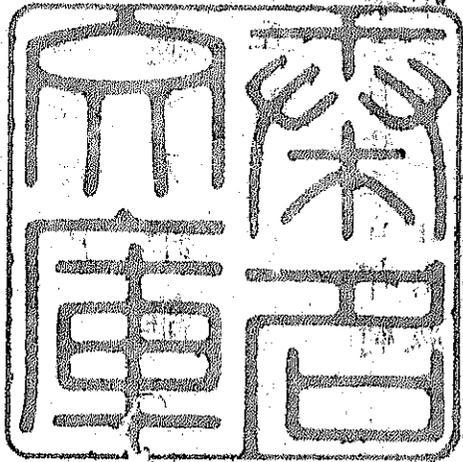
印刷者

三崎民樹
吉川半七

三重縣伊勢國桑名郡桑名町
大字魚町六拾壹番地

東京々橋區南橋馬町
壹丁目拾二番地

中臣神社 總走金



非賣品

